

2005年8月1日

サウジアラビア ラービグ計画の実施に向けた合弁契約の締結について

住友化学とサウジアラビアン・オイル・カンパニー（サウジ・アラムコ）は、サウジアラビアのラービグにおける石油精製と石油化学との統合コンプレックス事業計画（ラービグ計画）について、共同で事業化調査を進めてまいりましたが、このほど両社は本計画の高い事業性を確認し、合弁契約を締結、合弁会社の設立に着手いたしました。

合弁会社名はラービグ・リファイニング・アンド・ペトロケミカル・カンパニー（ペトロ・ラービグ社）で、当社とサウジ・アラムコ社の折半出資会社として設立いたします。今後は、設備建設のためのエンジニアリング、資材調達、建設工事等の契約および、銀行団との融資契約を年内に締結し、来年ははじめに着工、完成は当初計画どおり2008年後半を予定しています。計画にかかる総投資額は85億ドルとなる見込みですが、その過半はプロジェクトファイナンスで調達する予定であり、民間金融機関だけでなく国際協力銀行およびサウジアラビアの政府系金融機関からの融資を受けたいと考えています。なお、当社の資金負担額は1,500億円程度となる見通しです。

また、プロジェクトの遂行にあたっては日本貿易保険の海外投資保険等の活用も検討してまいります。

ラービグ計画は、サウジ・アラムコ社が現在、サウジアラビア紅海沿岸のラービグにおいて所有する日量40万バレルの原油処理能力を持つ製油所に、石油精製2次処理設備を新設しガソリンを新たに生産するとともに、エタンクラッカーと流動接触分解装置（FCC）、さらにポリエチレンやポリプロピレンといったポリオレフィンを中心とするエチレンやプロピレンの誘導品の生産プラントを新設するものです。原油価格などが高騰する中で、競争力のある原料をサウジ・アラムコ社から安定的に供給を受けるとともに、エチレン130万トン、プロピレン90万トンの生産能力を有する世界最大級の石油化学製品生産設備を建設することでスケールメリットを最大限に発揮し、これまでに比べ飛躍的に収益力の高い石油化学事業を展開いたします。

総投資額は、事業化調査を開始した昨年5月に公表いたしました43億ドルと比較して増加していますが、これは昨今の資材価格や建設費用の高騰とともに、今回、新たに計画の範囲に電力や工業用水の大型付帯設備等を加えたことによるものです。一方、昨今の原油価格の高騰や、それに伴う石油製品、石油化学製品の市況の大幅な上昇は今後も継続するものと予想される中で、本計画においては主要原料であるエタンガスは予め決められた価格で入手できることから販売の-marginは拡大し、投資額の増加にも関わらず収益性は調査開始時に比べても一段と増しています。

当社は、ポリオレフィンを中心とする石油化学事業を重点事業のひとつに位置づけ、その収益性を中長期に向上させるために、安価原料の安定的な確保を最重要課題として本計画の推進に取り組んでまいりました。今後は、計画通り建設を完成させ、日本、シンガポール、アメリカそしてサウジアラビアのグローバルな拠点の最適な組み合わせを実現することにより、事業の拡大と収益力の向上を図り、当社が21世紀において目指す姿である「真のグローバルケミカルカンパニー」へ向けて大きく前進してまいります。

以上